第 2014-33 号

恵みと真理のニュース

2014 年 8 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　哀れみ深い神様、罪ある私を救ってくださり 神様の国のため従順し献身する幸せを知るようにしてくださいました

私はイエス様を信じない家庭で生まれ子供のころクリスマスの時村にある教会を何回か行った事が全てでした。
1983 年に神様を信じない旦那に出会い結婚しました。どころが、舅姑は教会の執事でした。私達が結婚してまもなく母もイエス様を受け入れ恵みを受け熱心に信仰生活をしました。母と舅姑は私達に早くイエス様を信じ救われ神様を仕える生活するように勧めました。しかし、私達夫婦は両親の密かにお寺に登録したまに行き拝みむしろ、偶像崇拝をしました。この事を知った母は怒ってこれから会わなくて家には来ないように言いました。すると私達はこれから何も信じなくてどんな宗教も信じなく生きようと思いました。
当時、私達の夫婦は玉突き場を運営していますたが思わなく子供を妊娠して恐くて心配でした。今まで空気が悪い玉突き場で働いていつもタバコの煙を吸いながら生活してきたから、妊娠した喜びより不安がもっと大きかったです。もし健康ではない子供を産んだらどうしよう？不安が来る時私も知らずにおなかに手をあてて神様に祈りました。
“神様、私達が今まで偶像崇拝し神様を信じなかったことお許しください。きれいで健康な子供を下さればこれからただ主を信じます。信者よりも切に祈りました。
息子を産み産後の養生が終わってから神様に約束を捧げたので家から近い教会に登録し日曜日だけ教会に行って礼拝を捧げました。しかし、形式的な礼拝する信仰生活でした。時間が立っても神様に対する真実な信仰と愛ができませんでした。
思いかけず事業場をスワンに移すようになりました。神様との約束したし、罰を受けるのが恐くて続けて教会には通いましたが新しい教会を捜すのも難しかったです。ちょうど旦那も教会に行こうと言ったので自分か通う教会を決めるようにしました。旦那は主日ことに私とともに行ったりあちこちの教会にも行ったり来たりしましたがなかなか決めませんでした。
ある日、主日に旦那が行ってきた教会が大きい教会で信者も多くにもかかわらず敬虔で静かな雰囲気で礼拝をするのが気に入り、牧師の説教を聴き自分も知らずにアーメンと答えたと私に一緒に通うことを勧めました。
その教会が恵みと真理教会でした。たとえ、うらのそらで通いましたがソウルで長老教会を通ったから教派が違って私はあまり気に入らなかったですが。旦那について教会に行き当会長の牧師の説教を聴き御言葉が頭の中に入り以前は経験してなかった神霊な恵みと感動をたくさん受けました。その日から旦那と私は自ら決信して教会の教員になりました。
その時から何ヶ月後、聖霊洗礼を受けました。霊的の状態が 180 度変り以前には仕方なく主日だけ礼拝を捧げた私が全ての礼拝に参加するようになりました。恵みを愛し求める心になり毎日礼拝時間を待ち望み礼拝をする時には喜びと感謝する心で礼拝を捧げました。
創世記 1 章 1 節の身言葉から初め聴き習った通りに神様の御言葉を完全に信じるように祝福ある信仰を与えてくださいました。 私を罪を赦しイエス様の寄生でわしを選んで子供をしてくださった神様の愛と恵みに感謝し、礼拝の時間ことに涙を流し礼拝する恵みの川に落ちるようになりました。スワンに事業場を移した事も偶然でもないし意思でもなく私達に信仰と御言葉に根を下ろす強い信仰を下さるため神様の摂理であることを考え神様に感謝を捧げました。
そうするうちにブンダンで引越ししました。ブンダンでは私達の教会が建てらる前でした。新しい家に引越しした喜びは少しで今まで教会で霊的に豊でしたすぐ乾きました。
神様の助けと導きを願い祈りながら多くの時間が過ぎてある日、私達の事業場で私達の教会のアンヤン聖殿から引越ししてきた首区域長に出会うようになりました。主日にはその区域長と共に遠いアンヤン聖殿まで行き礼拝を捧げ、平日は時間かなくて区域長の家で当会長の牧師の説教のテープを聴きながら平日礼拝をささげました。
一人二人引越しする区域長達と聖徒が増えいち早くブンダンにも聖殿が立てられるように集まって共に期間を決めて祈りました。
神様は私達の切ない祈りに答えてくださり、ブンダンに新しい聖殿を与えてくださいました。その後もブンダンから近い、スジとグリにも聖殿が立てられる驚くな神様の奇跡が教会に望むのをみて神様に感謝し栄光を捧げました。
ブンダン聖殿で区域長の職分を受け奉仕してから 6 年になる年にまたキンポに引越しして翌年首区域長の職分を受けるようになりました。その後には女性連合会で会長を引き受けました。過去、福音を排斥し伝道を拒否したわたしには想像もできないことでした。全てが神様の恵みでした。主が下さる職分に従順して感謝する心で部員の協力と聖霊神様の助けを下さり知恵と力を得て代価なく任務を耐えることができました。
任期を終え平会員に戻って奉仕しながら一時期は名残惜しい気がして責任が減り心が空しい感じでした。このような心を神様は知って今は助け合い宣教会の会長というほかの尊い責任を与えてくださいました。それで再び意欲と活力が溢れ今日も主と教会の名によって貧しい人々を助け福音を伝える事に最善を尽くしています。日々主の事をする楽しみと幸せを教会のなかで味わうようにしてくださった神様の恵みに感謝を捧げ、主の事に献身する健康を与えてくださった事にも感謝します。力がある限りイエス様の心で倒れていく魂を愛し伝道する苦労を喜びで思い、全のなる神様の御心に従い奉仕し献身します。真の良い神様を声高く賛美し全ての栄光を捧げまうす。

[信仰コラム]　いつも喜んでいなさい

いつも喜んでいなさい。（テサロニケの信徒への手紙一 5:16)

孔子は″貧乏ながらもお世辞しない、金持ちでありながら、傲慢でなければどうですか?″という問いに対して″良く、そのようか貧乏ながらも喜ぶと思って金持のくせに例を好きな人だけはできないよ。″と答えました。、東西古今を問わず、すべての人たちは喜びを希求するが、いつも喜びながら暮らす人を見ることは容易ではないです。その理由があります。希望しながらも、努力はしないからです。また、誤った方法で得ようとするからです。そして真に完全、永久した喜びについて知ろうともしない、知らせても背を向けているからです。
まず、喜びを享受しながら、生きるためにどんな努力をしなければならないのかをご覧ください。
第一、与えこととして受けることになる原理を適用しなければなりません。自然界の循環はこのような原理を説明してくれます。湖から水蒸気を空に上げて送ると雲がなって雨になって再び地上に降ります。それで、野と山では草木が育って畑には穀物が育つようになります。他の人に楽しみを与えようと努力すれば、自分も楽しみを得るようになります、喜びを望む場合、健全な手間と犠牲を通じて他の人に喜びをプレゼントする努力をしなければなりません。
第二に、喜びの素材を捜し求めるため、努力しなければならないです。小学生時代に学校の遠足に行けば宝探し時間に隠しておいたメモを探すために木の枝を揺すって見て草をあさりながら、石を後について通っています。これと類似した行事が私たちの日常生活に継続されます。’喜びの所在探し’です。勤勉で細心に調べれば、周辺に散らばっている喜びの素材を発見することができます。
第三、水を吸い上げて受動ポンプのポンプの原理を適用しなければなりません。ポンプの取っ手を持ってした後ポンプ入り口に誘い水を適当な速度で腫れて入れながら取っ手を振ったら圧力がかかり、地下水が引かれて来始めます。このように喜びの井戸を吸い上げて飲もうと思ったら先に心に喜びを入れて入れる過程が必要です。嬉しい賛美歌曲を探して呼んでみてください。喜びがさらに多くの喜びを引き上げてくれます。喜んでながら暮らしてたらうれしいことが出来ます。
第四に、肯定的で楽観的に考えする原理を適用しなければなりません。心の考えがとても重要です。考えの向きを変えることで全く別の状況を引き出すことになります。、反対のための反対をして非難するため、欠点を探す行為は否定的な態度です。自分が果たせる力量を尽くして努力した後は神様の摂理と決定に任せるのは楽観的な態度です。いつも肯定的で楽観的な態度で生きていく人の心には喜びがあります。
次に、健全で真、永久した喜びに関して説明します。人たちは真に完全、永久した喜びを渇望するが、そのような喜びを得ることができず、飢渇に置かれていますこのような人生に魂の中でミネラルウォーターの川が流れ、あふれるようにするために、イエスを信じる者たちに聖霊様が取り組むて生まれ変わらせて彼の魂深いことから喜びのミネラルウォーターが溢れているようにするため、イエスさまが激しい嘆きと涙で祈念して十字架の苦難を受けました。神様は喜びの源です。
サマリアのスガ城に住む一人の女性は魂の渇急を満たすため 5 回も夫を変えて新しい所帯を設置しました。しかし、彼の魂はさらに疲弊しました。真に永続的な喜びはどこにもありませんでした。ある日、彼女が一人で昼間に水くみに出て、井戸端でイエス様に出会います。すると、メシヤを会ったその喜びがその女性の魂の渇急を一時に解決しました.ミネラルウォーターの川のように枯渇されることなく、永続的に立ち上がって流れる喜びで生きていくためには、必ずイエス・キリストを信じなければなりません。キリストキリストを信じて省令で生まれ変わった人だけがこのような喜びを持っていつも喜ぶことができます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

クリスチャンの生の動機と目的

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

私たちのすべての行為には動機と目的があります．動機と目的が稀薄とかあやふやな場合はあり得るが全然ない場合と言うのはないです．動機や目的が善良で美しいのがある一方 邪悪なのがあります．単純なのがあるかすれば複雑なのがあります.私的なのがあるかすれば公的なことがあります．人間社会は自分や他人やあるいは個人や組織体の行為に対してその動機と目的を置いて論争するとか離合集散する場合があまたあります．個人や組織体のすべての活動はその動機と目的によって性格が規定されられて価値と意味が決まられます．イエスキリストを信じる人は以前にはなかった新しくて崇高な生の動機と目的を持つようになります．

第一に、イエスキリストの強く迫っている愛がクリスチャンの生において基本的で核心的な動機です．

使徒パウロは言うのを **“もしわたしたちが、気が狂っているのなら、それは神のためであり、気が確かであるのなら、それはあなたがたのためである。なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。”（コリント人への第二の手紙，5 :13,14 上）** しました．聖書 エペソ人への手紙，3 章 18 節，19 節に記録されるのを **〃すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。〃** しました.キリストの愛を示して〃知識にあふれる愛〃と言いました．キリストの愛は人間の知識では到底わからない神秘で驚くべきな愛で私たちの想像を超越的な愛です．キリストの愛はその広さがすべての人に及ぶように豊かであり，その長さが時間の制限を越して永遠になるように長いです．キリストの愛はその高さが罪人を天国に至るようにする位高くてその深みが罪人を救援しようと死んで陰部に下がるまでくらい深いです．イエスキリストが釘を打たれた十字架は広さ，長さ，高さ，深みを示しています．キリストの愛はふんだんな愛です．キリストの愛はその誰もその何も切ることができない愛です．キリストの愛は差別ない愛です永遠な愛です．
使徒パウロはキリストのこのような愛が私たちを強く迫っていると言いました．’ 強く迫っている’という言葉は無理やりに勧めるという意味なのに原語の意味を現わすに十分ではないです．原語は ’強要する，抑制する，捕らえる，支配する’という意味があります．まるで流れる川で永ぐ人の激しい波が後から圧迫を加えるので下に押していくようです．

使徒パウロのすべての活動の動機はこの強く迫っているキリストの愛でした．彼は言うのを **〃わたしはエルサレムから始まり、巡りめぐってイルリコに至るまで、キリストの福音を満たしてきた。〃（ローマ人への手紙，15 :19 下）** しました．

こんなに福音を伝える過程で彼の経験した苦難が極甚だったことを打ち明けました．
〃わたしは彼ら以上にそうである。苦労したことはもっと多く、投獄されたことももっと多く、むち打たれたことは、はるかにおびただしく、死に面したこともしばしばあった。ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、そして、一昼夜、海の上を漂ったこともある。幾たびも旅をし、川の難、盗賊の難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあった。〃(コリント人への第二の手紙，11 :23 下～27) しました．
〃パウロ使徒よ，あなたがあらゆる誤解，非難，謀陥，蔑視，苦難にも屈しなくてそのすべてのものを忍耐して福音を伝えた動機が何ですか?〃と問ったら〃イエスキリストの愛が私を強く迫ってしたな〃と答えるでしょう．パウロはダマスコ道の上でキリストの愛に捕らわれるようになりました．元々彼は基督教会を迫害した者でキリスチャンたちを逮捕するためにダマスコに行く途中でした．**ダマスコの近くにきた時に、真昼ごろ、突然、つよい光が天からわたしをめぐり照した。わたしは地に倒れた。そして、『サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか』と、呼びかける声を聞いた。これに対してわたしは、『主よ、あなたはどなたですか』と言った。すると、その声が、『わたしは、あなたが迫害しているナザレ人イエスである』と答えた。〃**．この日から彼は神秘的で驚くべきな愛に捕らわれました．神様が人になっていらっしゃって人生の罪を担当して十字架に代わりに釘つけられて死ぬ事があがないの真理のを悟るようになったのです．その日以後彼はキリストの愛にとりこになって支配された者になりました．羊たちが牧者の口笛の音に回答したとおり従うようにパウロを刺激して活動するように強く迫っているキリストの愛でした．
聖徒の皆さんは〃キリストの愛が私を強く迫っているのだ〃と言うように願いします．
これよりもっと善良で美しくて崇高な生の動機はいないです．ここで ’強く迫っているのだ’と翻訳された単語は現在型です．いつも強く迫っているという意味です．キリストの愛が皆さんの生においていつも一貫された動機になるように願いします．

二番目で、私たちの代わりに死んでからまた生きているキリストのために暮すことがクリスチャンの生において基本的で核心的な目的です．

使徒パウロは言うのを **〃キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。わたしたちはこう考えている。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。(コリント人への第二の手紙，5 :14)** 聖書の言う死は三種類で分類されます．肉体的な死があります．肉体と霊魂が分離する現象です．初代の教会のスデバノ執事がユダヤ人たちの迫害を受けて石に当たって死んで行く時叫ぶのを〃主イエスよ私の魂を受けてください〃と言いました．彼は死と言うのは魂が肉体を去っていくことなのを分かってこのように言ったのです．肉体的な死はアダムの犯罪でよったことでイエスキリストが再臨なさる前まではすべての人が経験するようになる不可欠な過程です．
霊的な死があります．霊的な死は人間と神様との分離を意味します．神様がアダムに善を知る木の実を食べる日には全く死ぬのであるとおっしゃったがこれは神様との関係が断絶される霊的な死を意味するのです．そして二番目の死亡があります．イエスキリストの再臨後に罪人たちが最後の審判を受けて永遠な暗さと苦痛と悲しみを経験するようになる火の池に投げられることを意味します．
“ひとりの人がすべての人のために死んだ” という言葉はイエスキリストのあがない的な死を言います．アダムが罪を犯したのでその血統を生れついたすべての人はすべて原罪を持って出生して罪悪の中に住んで行って審判を受けるようになって二番目の死亡に処するようになりました．しかしイエスキリストがいらっしゃって私たちの罪を代わりに担当して十字架に釘付けられて死んでよみがえって昇天なさったからイエスキリストを信じる者は誰もこれからキリストと連合するようになりました． イエスキリストのあがないの死と復活はこれを信じる者に永生を得るようになるのみならずこれからは新しい目的を持って暮すようになります．**“そして、彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。”（コリント人への第二の手紙，5 :15)** で言いました．キリストのために暮すということは何でもイエスキリストが願って喜ぶ方向どおりおこなうということを意味します． イエスキリストのために暮す人は教会に徳と有益をかける言葉と行動をします．キリストのために暮す人は不信者をイエスキリスト位に導く事に愛情を抱いて力をつくすようになります．人々が問うのを “あなたはどうしてそのように熱情的に信仰生活をしますか?” と言えば，“私のために死んでからよみがえって生きているイエスキリストのためからです.” と答えてください．“あなたはどうしてこのように迫害を受けながらも伝導しますか?” と問ったらやっぱり “私のために死んでよみがえって生きているイエスキリストのためからです.” と答えてください．
私たちがすべての事において一貫しながら変わりがない動機と目的を持って行わなければなりません．しかしそれは神様からとしてよったことではなければなりません．今日の本文はこれを提示しています．**“もしわたしたちが、気が狂っているのなら、それは神のためであり、気が確かであるのなら、それはあなたがたのためである。**
なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。わたしたちはこう考えている。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。そして、彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。”（コリント人への第二の手紙，5 :13～15)．強く迫っているイエスキリストの愛が動機になって生きて行かなければなりません．私たちの代わりに死んでからよみがえったイエスキリストのために目的で生きて行かなければなりません．このような動機と目的に生きて行く人は誰が何と言っても気を使うまでもないです．

愛する聖徒の皆さんは強く迫っているイエスキリストの愛が動機になって，キリストのための目的で生きて行くようになるのをイエスキリストのお名前で祝福します．